

令和6年度 高校生の作文コンクール



笑顔のあるコミュニティ 再生を、建築の力で



国土交通大臣賞

静岡県立浜松工業高等学校

建築科3年

すずき
鈴木

かずや
和弥

私の夢は、世界の人々に自分の居場所、帰る場所「自宅」を作ることだ。そして、「自宅」で囲まれたその街に、幸せが溢れかえるようにする事だ。

私はフィリピンで生まれ、幼少期を貧しい田舎で過ごした。私は恵まれていたのだ。ありがたいことに自宅があり、普通の生活をしていた。食べる場所や寝る場所、シャワーを浴び、くつろげる空間が、そこにはあった。しかし周りを見渡せばダンボールの上で寝て、ダンボールの上で食べ、雨風も凌げないような人達が多くいた。家はあっても簡易的に作られた小屋のようなものしか無かった。バラックのような家が広がった街ではゴミが散らばり、治安は悪かった。景観は荒れていた。一体誰がこの街で分かりあい、幸せを感じて過ごすことができるのだろうか。

私が日本に来たのは5歳の頃だった。幼い時に見た、フィリピンの荒れ果てた景色とは違い、景観や街に住む人達の姿を見て感動したのを覚えている。みんなこの景色を当たり前のように見て過ごしていて、日本の建築物のクオリティの高さに驚かされた。そしてこの光景を作り出しているのは、当たり前日々を過ごし、当たり前前に帰る。そんな「自宅」、「街」があるからこそ、みんな幸せそうに笑っているのだと感じた。その日から私はいつか世界中の誰もがみんなが幸せになれるような「自宅」「街」を作ることが自分の目標になった。

私は今、高校で建築を学んでいる。構造から材料、建て方や景観まで自分の夢を叶えるため日々建築の基礎から一つずつ力を身につけている。建

築の奥深さに触れ、色々な違いにも気付かされた。日本と海外では大きく建築物の特徴に差があった。気候が違えば使う材料が違うし、考え方や文化が変われば、建物そのものが、街や地域それ自体が変わってくる。建物を建てる時の費用の大きさにも驚いた。今のままでは貧しい人達には到底「自宅」は作れないことを知った。建築一つにも違いがあった。同じ建築物で全ての人に幸せになって貰うことは出来ないことに大きく気付かされた。そして自分の夢がどれだけ大きいのかも気付かされることになった。それでも私はこれからも建築を学んでいく。地域にあった建築物を建てるために、貧しい人達に帰る場所、住める街を作るために。いつかみんなが楽しく不安のない、幸せな日々を作るために。街の治安や人が幸せを感じられること、みんなが笑顔でいられること。それが建築から始まっていることに気付いた日から、私は学びを止めない。

私はまだまだ未熟である。建築に対する知識も経験も遥かに足りない。私は大学に進学し安く耐久力に優れた構造、海外の建築文化、海外の歴史や特色について学ぼうと思っている。これからも建築に触れ合い、深めていきたい。私の夢が叶うまで、いつか世界の全ての人に自宅と住まう街ができるまで。

